

耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度 $K_h=2.0$)

1. 機種 =

2. 形名 =

3. 機器諸元(図1参照)

(1) 機器質量(運転質量) $W =$ kg

(2) アンカーボルト

① 総本数 $N =$ 本

② サイズ・形状 $M =$ 形

③ 1本当たりの軸断面積(径径による断面積) $A =$ mm² = m²

④ 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 $N_t =$ 本

(3) 据付面より機器重心までの高さ $H_g =$ mm = m

(4) 検討する方向からみたボルトスパン $L =$ mm = m

(5) 検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 $L_g =$ mm ($L_g \leq L/2$) = m

4. 検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1) 設計用水平震度 $K_h =$

(2) 設計用鉛直震度 $K_v = K_h / 2 =$

(3) 設計用水平地震力 $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 =$ N

(4) 設計用鉛直地震力 $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 =$ N

(5) アンカーボルトの引抜力 $R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} =$ N

(6) アンカーボルトのせん断力 $Q = F_h / N =$ N

(7) アンカーボルトに生ずる応力度

① 引張応力度 $\sigma = R_b / A =$ MPa $< f_t = 176.4$ MPa

② せん断応力度 $\tau = Q / A =$ MPa $< f_s = 132.3$ MPa

③ 引張とせん断を同時に受ける場合 $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6\tau =$ MPa

$\sigma =$ MPa $< f_{ts} =$ MPa

(8) アンカーボルトの施工法

① アンカーボルトの施工法 =

② コンクリートの厚さ = mm = m

③ ボルトの埋込長さ = mm = m

④ 許容引抜加重 $T_a =$ N $> R_b =$ N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分なる強度を有する。
本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

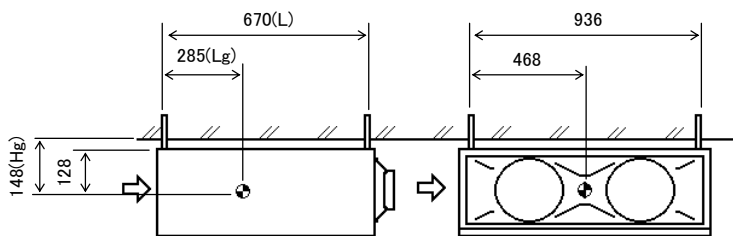


図1